

酒匂川漁場環境調査（要旨）

故山本正一・小林良雄・作中 宏

※安藤 隆・小山忠幸

酒匂川の三保ダム建設後の漁場環境および漁場行使状況に関する調査を、昭和58、59年度において実施したが、更に過去（昭和43、45年度）の調査¹⁾結果と総合的に比較検討して、アユ漁業等への影響を考察した。

なお、本調査の結果は「酒匂川漁場環境調査報告書」として既に報告してあるので、ここでは要旨のみを記載する。

- (1) 昭和59年における酒匂川本流の河口～三保ダムの間の瀬・淵の分布図を作成し、その面積を求めたところ、全域では43年に比べて淵面積は減少し、早瀬・平瀬の面積は増加していたが、下流の小田原地区では早瀬面積の減少が認められた。
- (2) アユ漁場面積の全水面積に対する割合を43年と59年で比較すると、上中流の山北地区、松田地区では変化はなかったが、下流の小田原地区での減少が著しかった。
- (3) 投網等により本流の9地点において魚類相を調査し、5科15種を確認したが、43年の調査結果と大きな

相違はなかった。

- (4) 下流域における産卵場の確認と底質組成の調査を行ったところ、産卵場は従来より上流域へ移動傾向にあり、1mm未満の砂が多い所では産卵が認められなかった。
- (5) 出漁者数・びく調査・補正係数調査を実施して、漁場別漁獲量を算出した。その結果、43年に比べて山北・松田両地区では単位当り漁獲量が増加したが、小田原地区では減少が著しかった。
- (6) 小田原地区では砂面積の増加と早瀬・淵面積の減少により、アユ生息の一等地が著しく減少した。

文 献

- 1) 神奈川県農政部水産課（1971）：酒匂川漁業実態調査書，P40。
- 2) 神奈川県淡水魚増殖試験場（1985）：酒匂川漁場環境調査，P80。